

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024年 3月 5日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0801027
	②		福祉	H1701080
	③		経営	H0201025
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	千鳥保育園			
事業所連絡先	〒	146-0083		
	所在地	東京都大田区千鳥1丁目1番25号		
	TEL	03-3753-1001		
事業所代表者氏名	菊地 布実子			
契約日	2023年 5月 29日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 7月 25日			
利用者調査結果報告日	2023年 11月 1日			
自己評価の調査票配付日	2023年 7月 25日			
自己評価結果報告日	2023年 11月 1日			
訪問調査日	2023年 11月 8日			
評価合議日	2023年 11月 8日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和5年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024年 2月 28日

事業者代表者氏名

菊地 布実子

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 子ども一人ひとりの思いに丁寧に寄り添い、人への信頼感、人と関わるを育みます。</li><li>2) 安定した生活リズムを大切に、基本的な生活習慣を身に着けられるように援助します。</li><li>3) 一人ひとりの長所に目を向けて褒めてのばす保育を心掛けます。</li><li>4) 保護者より良い関係を築き専門性を活かした子育て支援を行います。</li><li>5) 近隣の保育施設とネットワークをつくり、地域の子育て支援に取り組みます。</li></ol>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもの人権を尊重し、子ども一人ひとりの発達、特徴を十分に把握し、それに応じた保育ができる職員。 保育実践や研修を通じて保育に関する知識や専門性を高め、保育の質の向上を図る職員。 公立保育園の役割を理解し、園内外の支援が行える職員。 他の職員と連携を図りながら協力して仕事を進めることができる職員。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>人間形成の基礎を培う極めて重要な乳幼児期に関わる仕事であることに誇りと責任を持って、専門的な知識、技術の向上に努めてほしい。 保育を取り巻く社会情勢、保護者・家庭の状況を理解しながら保護者に対応してほしい。 区の職員、福祉サービスに携わる職員として、園内だけでなく大田の子ども達の健やかな成長を支える役割があるという意識を持ってほしい。</p>

調査対象

2023年7月27日現在の施設の利用者(保護者) 101世帯(利用者総数 118名)を対象とした

調査方法

WEBアンケート。施設にて担任が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数  
利用者家族総数(世帯)  
共通評価項目による調査対象者数  
共通評価項目による調査の有効回答者数  
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

118

101

101

68

67.3

## 利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(94%、64人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか  
(各々 97%、66人)

問3. 園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか  
(94%、64人)

## 利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	66	2	0	0
毎日湯水遊びをするなど、家ではできないことをやってもらえて助かります。また子どもの興味を引き出すような工夫がお部屋の中にとたくさんあり嬉しいです。 いつも保育園での活動が楽しかったと話してくれますし、いつの間にかできるようになっていることが多いです！ お話も、先生が訓練してくださり、いっぱい説明できるようになりました！ などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	66	2	0	0
興味がなかったとしても、興味を引き出していただき、共同生活させていただいているように感じております。 中々家では親の気が進まない粘土や砂遊びや水遊び等とても楽しんでいる様子に思う。 創意工夫凝らして子どもの心を育てていただけていると思います。 などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	64	4	0	0
美味しいようで毎日完食しています。一般的な子より食欲が旺盛なのから足りずに帰宅後機嫌が悪いこともあります。量の調整も柔軟に対応していただけると嬉しいです。 おやつも手作りなのが本当にありがたいです。うどんやおにぎりなどがおやつで食べられるのは保育園だけなので市販のお菓子をできるだけ与えたくない親としてはありがたいし、何より手作りのおやつを食べられる幸せを感じて育つのがすごいと思います。 などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	37	27	3	1
<p>都会なので、十分は、難しいですね。でもその中でも、くさっぱら公園などに連れて行ってくださっているのが、助かります！園内では色々工夫していただいております、満足しています。外遊び(歩いて公園に行くなど)が民間の保育園に比べ少なく、自然や社会という面では少し足りてないかなと感じます。前途の通り、人数も多く、なかなか散歩に行けない、天候の問題もあり、そんななか、本当に工夫して下さっていることには、感謝しかありません。 などの意見があった。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	50	15	0	3
<p>柔軟に対応しますよと声をかけてくれるので、とても安心できます。 以前、そのような相談をさせていただいたとき、「できるかぎり力になりますので、何でも相談してください」と、心強いお言葉をいただいた。 などの意見があった。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	55	12	1	0
<p>老朽化も含め、対策のための改善や工事をしてくれていると思っています！ 火災訓練や避難時の洋服の確保、離乳食保存食の確保など対策が取られていると考えています。 などの意見があった。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	39	27	1	1
<p>比較的皆さんお休みの土曜日に開催されることが多いですが、仕事の事もあるので、早めに案内があると助かります。 土曜日に保護者会を開催してくれるので、ありがたいです。 などの意見があった。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	60	8	0	0
<p>通い始めたばかりにも関わらず、積極的に保育園での様子を教えてくれるので、とても嬉しいです。上記の対応をしてくれるので、子育てについて相談しやすい雰囲気を感じます。 受け渡しの時などに、気づいたことや成長したところを報告して下さったり、親のことも気遣ってくれたりするなど、連絡帳でのやりとり以外にコミュニケーションをたくさんとってくれるため、信頼していますし、小さなことでも都度相談させてもらっています。 などの意見があった。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	62	6	0	0
<p>建物は古いものの適切にメンテナンスされています。今後も継続的に設備更新を進めていただきたい。 掃除はコロナ渦よりかなり大変になった業務かと思えます。支援員さんには感謝してもきれません。 園自体は古いですが、所々修繕していただいているので満足です。 などの意見があった。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	58	9	1	0
<p>担任以外の先生方も子どもの様子を教えてくださいるので嬉しいです。 クラスの先生以外にも、明るく声掛けしてくれるため、安心感があります。 などの意見があった。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	62	4	1	1
状況を詳細にお知らせ頂けているので、安心しています。 皆様のお陰で安心して仕事に行けます。毎日ありがとうございます。 けがをしたときの状況や、けがをしたときの園の方針など、ていねいに解説していただいた。 親が気づかないような小さな傷であっても報告してくれます。 などの意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	53	12	0	3
トラブルがありケガをした時、担任の先生だけではなく園長先生も状況説明をしてくれました。 といった意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	63	5	0	0
先生によって違いますがあらかたそう感じます。 といった意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	61	6	1	0
特記すべき意見なし。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	58	9	0	1
定期的に保護者を集めて、保育内容をプレゼンしてくださり、その内容がとてもわかりやすかった。 といった意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	56	12	0	0
衣類などの持ち物(名前あり)がなくなった時、できる限りの対応をしてくださったと思います。出てこなくても、仕方ないか…と思えるくらいです。 不満なことがないのですが、お伝えしたとしても真摯に対応いただけると感じます。 まだこういった事例はありませんが普段の対応をみて対応して下さるかなと思う。 などの意見があった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	40	24	1	3
まだそのような経験がありません。 といった意見があった。				

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	<b>園目標や保育方針は年度初めの職員会議で読み合わせをして共通理解する取り組みがある</b> 重要事項説明書には保育園の目的や区の保育目標、園の基本理念と運営及び保育方針、園目標と児童憲章が掲示されて職員や保護者が常に確認できる取り組みがある。事務所にも園目標が掲示され入室者が確認できる。また、年度初めの職員会議で「職員心得」を使用し、園目標等の読み合わせをして共通理解をしている。保護者に対しては重要事項説明書に園目標や保育方針等を記載し、入園時のオリエンテーションや保護者会で理念・園目標を説明し理解が深まる取り組みがある。	
	<b>園長は年度初めの職員会議で業務分担表等で自らと職員の役割と責任を周知している</b> 園長は年度初めの職員会議で業務分担表等で自らと職員の役割と責任を周知している。また、区の園長会や地区別園長会、地域会議などに参加しその内容を職員に伝え、取り組むべき方向性や事項を提示している。職員面談の際には面談シートを使い、職員の希望を把握しながら受講すべき研修などの助言をしてリーダーシップを発揮している。職員調査においても「何か困ると園長や副園長に相談でき解決策を提案してもらえる」という声があり、園長の相談しやすい環境作りや、様々な問題に対して解決を導き出したり、指導を行う姿勢を評価する声がある。	
	<b>重要な案件は主にリーダー会で検討し、その結果をリーダー会や職員会議で決定している</b> 組織図や会議運営手順に基づき重要な案件は主にリーダー会で検討し、内容によっては各プロジェクトチーム(PT)で検討しその結果をリーダー会や職員会議で周知・決定され、その内容と決定経緯については会議欠席者にも回覧で既読印を押して周知を図っている。各会議の内容や議題は事前に表示して職員の意見を反映できるようにしている。重要な案件や決定経緯は保護者会で必要に応じて説明したり、園だよりや電子配信システムで配信したり、掲示板等により決定事項や決定経緯を伝え、透明性を確保している。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>園長は保護者や職員、非常勤職員等、全ての関係者の意向を把握するように努めている</p> <p>保護者の意向は意見箱を設置したり、保護者会や個人面談、保育参観時に要望などを収集している。特に保護者会には事前に議題などをアンケートで聞いたり、イベント終了後にはアンケートで感想を聞き、次年度に反映させている。職員の意向は園長が個別に職員面談を行い、面談シートを基に意向や希望を把握したり、年度末に意向調査を行い、改善が必要な案件は職員会議やリーダー会で課題を確認して検討している。園長は非常勤職員にも年初と年度末に面談して、全職員の意向を把握するように努めている。</p> <p>地域の福祉や福祉事業全体の動向は会議等の説明で積極的な情報の共有が期待される</p> <p>地域の福祉の現状は園長が地区別園長会や地域会議、ネットワーク会議に参加し、情報やニーズを把握して課題をリーダー会で検討している。福祉事業全体の動向は区から受ける情報や、社会福祉協議会からの刊行物、毎月の園長会から把握し、自園の状態や方針にとって参考になる情報はパソコンに取り込んだり、ファイルにして事務所に設置して、いつでも見られる状態にしている。また、会議等で周知している。</p> <p>理念と目指す保育園像を明記した中期計画を基に事業計画や年度計画を策定している</p> <p>把握した福祉ニーズや社会情勢(例えば在宅子育て所帯を含めた子育てに対する不安等)を踏まえて令和3年～5年の中期計画と事業計画等を策定している。事業計画書には重要課題と達成すべき目標を明記している。ただ、前期の事業報告を中期計画の中に記述する方式をとっており、分類することが期待される。中期計画を基に「全体的な計画」と今年度の事業計画が策定されており、それを基に各プロジェクトチーム(PT)が行事計画等の年度計画を策定している。計画推進にあたり単年度予算の進捗状況を管理している。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況 **5/5**

評価項目1  
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2  
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ3の講評

**守るべき法や規範等を「職員の手引き」等の読み合わせで周知する取り組みがある**  
守るべき法や規範等を記載した「職員の手引きや児童憲章、全国保育士会倫理綱領」を全職員に配布し、職員会議で読み合わせをしている。また、園長は職員が自身の保育の振り返りをするための「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用して子どもの人権擁護についての把握度をチェックしたり、職員面談時に面談シートで確認するなど理解が深まる取り組みをしている。ただ、全国保育士会倫理綱領の掲示等の活用や、職員が携行して常に理念やルールを確認できる手段等も今後検討の余地があると思われる。

**保護者からの意向はリーダー会で検討し、即答の必要があれば園長や副園長が答えている**  
保護者からの苦情や相談は当園以外に行政の窓口や第三者委員に相談できることを入園のしおり(重要事項説明書)に記載し、読み合わせ時に説明している。また、園内には福祉オンブズマン制度についてのポスターを掲示している。保護者からの要望や苦情はリーダー会で検討し、即答の必要があれば園長や副園長が答えるなど苦情対応マニュアルに沿って解決を図っている。保護者からは以前から駐輪場の設置の要望が多いので園から区に要望を出しているが、解決に至っていない。

**園の情報誌を児童館や病院等に配布し、地域との関係性を高める取り組みをしている**  
地域の福祉ニーズに基づき子育て支援の一環として、事業所の専門性を活かして自園の公開保育に近隣保育施設の保育士を招き、共に学ぶ場を設けたり、行事などに地域の子育て中の方々の参加を促しており、地域の親子向けのお楽しみイベントや離乳食相談などを行い、地域の拠点園としての役割に努めている。昨年度は保育実習生を2名、看護実習生6名を受け入れており、地域向けに園の情報誌「千鳥すくすく通信」を児童館や病院などに配布し地域との関係性を高める取り組みをしている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>散歩時のマップを作成しているが、掲示による保護者の安心感の醸成が期待される</p> <p>事故や感染症、不審者侵入などの起きる可能性が高いリスクに対して対策を講じているが、それぞれの対策の中で何より子どもたちの生命に関することを最優先とし、各対応マニュアルに沿って、事例を想定した訓練等の計画を立てて定期的に行っている。安全計画に沿って、チェックリストを用いての園舎内外の安全点検や、自然災害を想定した避難訓練などを毎月行っている。また、散歩に行く際は必ず下見をし、危険箇所を職員の目で確認し、ヒヤリハットマップを作成しているが、掲示による保護者の安心感の醸成が期待される。</p> <p>BCPを「保育園防災のてびき」に沿い、復旧期間や被害も想定して明文化している</p> <p>災害等に遭遇した場合の事業継続計画(BCP)は区が策定したものに園が現状にあわせた対策を加筆して策定している。BCPの基本方針や情報収集、地域連携、活動物資の確保、復旧活動、自衛水防組織や自衛消防隊組織における担当者明記等「保育園防災のてびき」に沿って復旧期間や被害も想定して明文化している。BCPの完成時に職員に説明しており、訓練も実施されていて職員調査によれば職員のBCPに対する意識は高いという素地がある。</p> <p>閉園時には重要書類は鍵のかかる書庫に保管しており、適切に情報管理をしている</p> <p>区や園で収集した情報はファイルにして事務所や休憩室等に設置し必要な情報を必要な時に得られるようになっている。パソコン内の情報は顔認証でアクセス制限をしたパソコンを事務所に設置している。紙媒体の書類はナンバリングをして整理・管理し、閉園時には個人情報や重要書類は鍵のかかる書庫に保管している。個人情報文書の取り扱いには使用管理簿を用いて確認している。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

3/3

評価項目1  
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ-5の講評

園長は職員のキャリアデザインを把握し、適切な人材育成計画を策定している

職責や職務内容に応じた長期的展望であるキャリアパスは、区の人材育成基準方針を配布したり、園長による職員面談時に面談シートに職員が自身の職業人生を主体的に構想するキャリアデザインを記載するなどわかりやすく周知されている。また、パソコンの職員ポータル掲示板で各昇進選考についても周知しているためか、職員調査で職員の理解度が95%と高い。キャリアアップ研修は職員面談時に園長が対象者に推奨したり、職員の経験年数や本人希望に合った職場研修を受講できるよう計画している。

園が求める人材像を踏まえて様々な研修受講を支援している

園長は職員との定期的な個人面談を通して面談シートを基に職員の個別研修計画を策定している。園内研修やテーマを定めてお互いの保育を見合う公開保育の他、園外の研修や自主参加研修はスケジュールを周知し、シフトなど体制を確保したうえで参加できるようにしている。区のOJTの特徴は縦のOJTに加えて職員相互で教え学びあうことにあり、園でも新人をクラスリーダーが指導している。研修受講後は受講者は研修報告書に内容や学び、今後の取り組み等を記載し、職員会議で報告し、3か月後に取り組みについての振り返りをしている。

園長は職員の頑張りをほめるなど意欲と働き甲斐の向上に努めている

クラスリーダーは定期的なクラス会議や毎日の昼礼で職員が積極的な意見交換ができ、相談にはアドバイスができるように傾聴の姿勢を大切にしている。職員調査でもクラスリーダーが協力し合い、リーダー会を中心に風通しが良い組織であるという声がある。園長は職員のクラス配置をできる限り本人の希望に沿うようにしたり、職員アンケートで園運営についてや担任クラスの希望を把握するようにし、面談時には職員の頑張りを褒めるなど意欲と働き甲斐の向上に努めている。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<b>評価項目1</b> 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<b>【課題・目標】</b> 保育園の目的に「子どもの人権を尊重する」とあり、虐待のニュースが多い中、地区の拠点園として区の保育水準を向上するために、「子どもの人権擁護」「保護者対応」について学びを深め、専門性を磨き保育の質の向上を図ることを目的とした。	
<b>【取り組み】</b> ①園内研修で「子どもを尊重する保育について」や「保護者対応について」をテーマに保護者役を設定するなど事例検討を行い、それぞれの対応を確認しあつた。 ②園独自の事例と人権チェックリストを使用し、チェックが多い項目をグループで討議した。	
<b>【取り組みの結果】</b> ①職員一人ひとりが自分の保育を振り返る機会となった。 ②望ましいかかわり方を全職員が共通理解できた。 ③園内公開保育で有意義な助言をもらい改善に役立てた。	
<b>【今後の方向性】</b> ②子どもの人権や保護者対応について今年度も確認できる場を設けていく。 ③地域保育園から参加してもらおう公開保育を計画する。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<b>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</b> 「子どもの人権擁護」「保護者対応」について学びを深め、専門性を磨き保育の質の向上を図る計画は、令和4年度の事業計画の重点課題に明記しており、子どもの人権擁護や保護者対応について自園内だけでなく、地域や区内の保育水準を高める意欲は地域拠点園としての高い意識として評価したい。取り組み方も園独自の事例と人権チェックリストを用い、園内研修で身近な話題としてディスカッションをしている。保護者対応でも職員が保護者役としてさまざまなシチュエーションに対応するシミュレーションや事例検討は、独自色が出ている。そのため、色々な取り組みの成果も出ていて、先ず職員一人ひとりが自分の保育を振り返ることで課題や改善方法を考えることができたこと、それを園内研修で話すことによって保護者との関わり方を他の職員も理解し自分の保育に役立てようとしていること、さらに園内公開保育において他クラスの職員も見合って、良い点は自クラスに水平展開してやってみようとする機運ができたこと、などがあげられる。今後の取り組みとして公開保育を地域の保育園の職員も招いて開催しようとしており、お互いが見合い、当園の良い点を地域の園でも水平展開すれば保育力増加が期待できる。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

区の方向性としてコロナ等感染症対策を講じながら地域の親子を園に呼んで在宅子育て支援の取り組みを再開することになった。そのため在宅子育て支援の取り組みを目標とする。

【取り組み】

①前年度からの地域向け情報誌(地域すくすく通信)のデザインや内容を一新し、折り畳み式小冊子にして児童館や医院など近隣施設に設置した。

②親子ふれあい遊びや離乳食相談などのイベントを年4回実施した。

【取り組みの結果】

①地域向け情報誌が小さく扱いやすくなったことと興味ある内容(昼食やおやつレシピ等)のため、手に取る人が増えた。

②イベントの参加者が増えた。

③離乳食についての悩み等の関心が高かった。

【今後の方向性】

①イベントが好評のため、回数を増やして次年度も実施する。

②離乳食についての悩みが多いようなので、栄養士が毎回相談に応じていく。

③園庭はないが小スペースで砂遊びを行える日を設け地域向けに参加を呼び掛ける。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li>○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li>○ 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li>○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li>○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

在宅地域子育て支援は前年度途中から区の再開の方針となり、園の中期計画で実施する計画と合致し、全体的な計画の中に保育所の役割として、地域の子育て家庭に対する支援を行うと明記しており、前年度で目標としたことは時宜にかなっている。そのための取り組み方もPRのための情報誌のデザインを一新し、利用者の関心を引く内容にしたり、手に取りやすい大きさにするなど、利用者本位の施策が成功している。取り組みの結果として園のPR誌としての「ちどりすくすく通信」を小さくし、内容に季節の語彙の意味やレシピ、クイズ等も記載したため手に取る人が増え、園の地域子育て所帯向けのイベント参加者も増え好評だった。次年度の取り組みとして、引き続き地域子育て支援を継続・拡充し、離乳食相談に栄養士が毎回相談に応じているなどの園の専門性を活かした取り組みをするようである。PDCAがPR誌の構成の工夫などによりうまく回っているように見える。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>園の情報は、行政が作成する冊子やホームページで得られるようになっている</p> <p>行政が作成した入園申し込みのしおりにて、園の情報を保護者が確認できるようになっている。区立保育園で統一した保育目標や延長保育料を含む保育料等の他に、園の所在地や年齢別の定員、受け入れ年齢や保育時間等が記載してある。保育園に子どもを預けて働こうと考えている保護者が、行政の作成した冊子やホームページを見て、園の保育目標や方針、近くの公園等の環境について知り、入園申し込みの検討や電話での見学の依頼ができるようになっている。</p> <p>地域の子育て親子に向けて園の情報誌を発行し園の取り組みの発信を積極的に行っている</p> <p>園では地域の人や子育て親子に向けて、子育て情報誌千鳥すくすく通信を発行している。情報誌は多様な人の手に取ってもらえるように近くの児童館、図書館、嘱託医、発達支援センター、スーパーに設置、散歩の際には携帯して、希望があれば渡せるようにしている。情報誌には、旬の野菜を使った季節の献立や園で人気の給食のレシピに加えて、季節の行事についてや簡単なクイズも記載し、保育園ならではの情報を発信している。合わせて、未就園の子どもと保護者に向けて、育児相談についてやふれあいあそび等の行事の実施についても記載している。</p> <p>入園希望の保護者を対象に見学会を実施し、園の保育について資料に沿って説明している</p> <p>行政のホームページに見学会の日程を記載、予約は電話にて受け付け、都合がつかない家庭には個別に日程調整を行い対応している。重要事項説明書を抜粋した資料を渡し、副園長と地域連携推進担当の職員およびリーダー層の職員がプレゼン用ソフトを使い、子どもの遊びや給食の様子などの写真も添えて、園生活について説明し園内を案内している。保護者からは、迎えの基準やおむつについて質問が寄せられ、今年度10月から試行的におむつのサブスクの導入を始めたこと等を話している。また、行政から配布された、育児応援券の使用も勧めている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>保護者を対象にオリエンテーションを実施し、重要事項説明書について説明している  入園が決まった保護者には、事前に連絡をして重要事項説明書や記載が必要な書類等を渡し、予め読んでてもらいオリエンテーションや新入園児面接を実施している。オリエンテーション時は、重要事項説明書に沿って、プレゼン用ソフトを使い園の保育目標や保育方針等、行事や食事、延長保育のスポット利用の申し込み手順に関して、具体的に説明している。</p> <p>新入園児面接にて子どもや保護者の状況を聞き、職員に周知し保育を開始している  新入園児面接を実施し、保護者と子どもの状況を把握している。当日は親子で登園してもらい、子どもの様子を見ながら、保護者に家庭の状況や子どもの生育歴や既往歴、保護者の意向等を聞いている。0歳児に関しては保育士に加えて、看護師、栄養士も同席している。保育時間や延長保育について、慣れ保育に関しては園長が聞き取りを行っている。食物アレルギーや特に注意が必要なこと等、面接で聞いた内容で職員に周知しておくことに関しては、職員会議で周知している。詳細に関しては、児童票を見て一人ひとりの把握に努めている。</p> <p>慣れ保育は、子どもの年齢や集団生活の経験の有無等を考慮して、日程を決めている  慣れ保育に関しては、保護者の職場復帰の日程や子どもの年齢を考慮して保護者と相談して決めている。0歳児での入園に関しては、保護者が余裕を持って復帰日の日程を設定している家庭も多く、初めて子どもを保育園に預ける不安に寄り添いながら、保護者との信頼関係の構築に努めている。子どもとは、一対一のふれあいの中で情緒の安定を図っている。2歳児までの保育園の連携園となっていることで、3歳児の入園に関しては集団生活の経験もあり、保護者もすでに働いていることから慣れ保育は予定していないが、保護者の要望があれば設定している。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4  
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

区の定めた様式に記入した児童票に、成長の記録や面談記録等を個別にファイルしている

保護者が記入した家庭の状況や生育歴、既往歴、入園後に担任が記載する、成長記録や面談の記録等を個別にとじ込み、必要に応じて追記をしている。保護者の就労状況や通勤にかかる時間等は、緊急時にも関係してくるので、園長や副園長等の担任以外の職員も目を通し、把握に努めている。保護者の意向については、入園時に子育ての中で大切にしていることの欄を設けている他に、個人面談や送迎時の会話、連絡帳への記入等で把握し、指導計画に反映したり、保護者に説明したりしている。

保護者に向けて、月案の掲示や保護者会、園便り等で保育内容について説明している

年度初めの保護者会にてクラスの一年の目標と、子どもの様子、クラスで大切にしていきたいことを話している。説明時にはプレゼン用ソフトにて、写真も使ってわかりやすいように工夫している。月の計画は保育室前の廊下に掲示し、園便り・クラスだよりでは子どもの姿を具体的に記入し、子どもが熱中している遊びや、楽しんでいる様子が保護者に伝わるようにしている。個別の内容については、連絡帳や個人面談、すくすくプランにて、園と保護者とで子どもの成長・発達や保護者の意向について意見交換をし指導計画や日々の保育に活かしている。

職員は、子どものことについて気づきを共有し話し合いを重ねる中で答えを見出している

子どもの様子や保育内容に関しては、クラス会議で一人ひとりのエピソードを抽出し記録、振り返りを行っている。全職員に周知や相談したい内容については、リーダー会議を経て職員会議にて提案し、話し合いの過程を経て指導計画に反映させている。子どもの日々の状況は、朝礼にて報告し、内容によってはクラス内で独自に昼礼を行い、更なる話し合いを進める場合もあり、振り返りと子どもの変化に気づく機会を大切にしている。朝礼の記録は、非常勤職員も含めすべての職員が見ることになっており、必要な情報が伝わる仕組みを整えている。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>重要事項説明書にて個人情報や肖像権について、園の対応を保護者に説明している</b></p> <p>入園時のオリエンテーションの際に配付する重要事項説明書にて、プライバシーポリシーとして、個人情報の収集や、管理、利用目的等について明記し、園の個人情報への取り組みについて説明、承諾を得ている。同時に、就学に向けて「保育所児童保育要録」を入学予定の小学校に送付することも記載し、保護者に了解を得ている。職員には守秘義務を課し、子どもや保護者の情報が漏れることのないように注意喚起をしている。また、保護者にも、行事の際に撮影した他の子どもの写真や動画をSNSにあげないように、理解と協力を求めている。</p> <p><b>職員全体で、子どもの気持ちを尊重した保育について話し合う機会を持っている</b></p> <p>乳児クラスであっても子どもの気持ちを尊重し、おむつ替えは他の子どもの見えないところで行う、着替えの際には上半身、下半身と順番に行い裸にならないように介助する、トイレに間仕切りを付ける等配慮している。また、身体計測は着衣のまま行う、健康診断の際には一人ひとり個室で行う等、子どもの気持ちを大切に考えている。一人ひとりの人格を尊重した対応ができるように、色々な場面で子どもにとってどうかを考え職員で話し合い、対応を確認する機会を持っている。</p> <p><b>虐待防止に向けて、研修報告の共有やマニュアルの整備を進め早期発見に努めている</b></p> <p>虐待防止や早期発見に向けては、研修の実施や研修内容の共有、マニュアルの整備等の体制を整え、心配な場面や状況があった場合には、職員間で共有し適切な対応ができるようにしている。職員は、全国保育士会の人権擁護のためのチェックリストを使用し自己評価を行い、グループ討議等で話し合い、園全体で子どもへの関わりについて共通認識を持って保育に従事し、気になることがあった場合には、お互いに声をかけやすい環境づくりに努めている。園長や副園長が、他園の不適切保育のニュースの情報提供を行い、園の保育について考える機会も持っている。</p>		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>保育に関する各種マニュアルを事務室に設置、特に周知したいことは全員に配付している</p> <p>大田区立保育園共通の、保健業務や事故防止ガイドブック、手引書等のマニュアルを事務室に設置し、職員がいつでも確認できるようにしている。心を育てる大田区の保育の冊子は、全員に配付している。また、厚生労働省の作成した食事の提供ガイドライン等も、事務室に設置必要に応じて確認をしている。プール開始前には、小規模プールの安全・衛生管理マニュアルを職員全体で見直し、特に注意が必要な点の確認や、過去の保育施設での事故の例を挙げる等、状況に応じてマニュアルの理解を深める機会も持ち、更なる周知を図っている。</p> <p>守るべきルールについてや手順書を園独自で作成し標準化に向けて職員で確認をしている</p> <p>新任職員は、まず、最小限必要な資料を集めて作成した園独自のマニュアル集を読み、園の保育理念や目標、全体的な計画、安全対策等園の保育について理解を深めるようにしている。年度初めに職員に共通理解マニュアルを配付、職員の服務として、勤務時間や当番のシフト等の説明、職員の心得として、自らの健康管理や保護者対応、子どもへの対応、子どもの育ちを支える言葉がけ等について周知している。また、早番や遅番の仕事の手順書や、職員用の屋上使用のルールブック等を作成し、安全に配慮して保育に従事できるようにしている。</p> <p>職員の提案や保護者の意見を得て、マニュアルや手順書を状況に応じて改定している</p> <p>行事後には保護者に向けてアンケートを行い、保護者の意見を次につなげるようにしている。また、安全対策・防災、室内外環境等の各プロジェクトチームから提出された意見を取り入れて、職員会議等で話し合い、マニュアルや手順書を見直す機会も持っている。変更した場合には、会議や朝礼で周知している。保護者には変更点をプリント配付して周知している。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(000000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの姿を観察し、遊びが広がるようにコーナーや玩具、絵本の選定をしている</p> <p>0歳児クラスから、5歳児クラスの全ての保育室に、遊ぶ場所、食事をする場所、午睡をする場所のすみわけができる環境を保障している。子どもが選べる高さの棚に、保育士が子どもの興味や関心に視点を置いて、年齢に合った玩具や絵本を置く他に、他クラスでの遊びの機会も持っている。訪問時、5歳児クラスでは、遊び途中の積み木が遊びのコーナーに出ている状況の中で食事が始まり、食事のために遊びを中断するものの、再開して遊べる環境を保証していた。職員で環境に関するプロジェクトチームを作り、より一層の充実を図っている。</p> <p>園の中で、在園する子ども全員が楽しく心地よい集団生活が過ごせる環境に配慮している</p> <p>子どもがやりたいと思った遊びを、思う存分楽しめるように人員の配置や、環境に配慮している。幼児クラスでは縦割りで活動や季節の共同制作を企画し、年齢の大きい子どもが小さい子の面倒を見たりする機会もあり、年上の子どもにあこがれの気持ちを持ち、自然なふれあいの中での異年齢児との交流も経験できるようにしている。特別な配慮が必要な子どもにとっても、園生活が楽しく、安心・安全に送れるように配慮するとともに、他の子どもも同じに保育士との一対一の関わりを持ち、大切にされていることを実感できるようにしている。</p> <p>子ども間のトラブルに関しては、職員の共通認識の基、年齢発達に応じた対応をしている</p> <p>友達への興味が芽生え、子ども間のトラブルが多くみられる1・2歳児クラスでは、体調や機嫌、場面によって起こることもあるので、職員が子どもの様子に目を配り、未然に防ぐようになっている。起こってしまった場合には、双方の気持ちに寄り添い、言葉を代弁する等している。幼児クラスに於いては、自分の思いを言葉で伝え、友達の気持ちに気づく機会や、思い通りにならない経験をすることも成長の過程で大切と考え、保育士が直ぐに仲介せず自分達の力で解決できるように見守り、子どもの気持ちに丁寧に関わっている。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当	
●あり ○なし		2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当	
●あり ○なし		3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当	
●あり ○なし		4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当	
評価項目2の講評					
<p><b>朝の預かりの際には健康観察を行い結果を職員間に周知し継続した健康管理に努めている</b></p> <p>朝の預かりの際には、早番や担任が健康観察をし保護者へ子どもの健康状態について確認をしている。前日の健康状態からの確認が必要なことや、保護者からの連絡を遅早連絡ファイルに記入し、職員全体で把握している。健康状態で経過観察が必要な場合は、看護師を含め園長や副園長が把握しこまめに保育室へ様子を見に行く、定期的に検温する等している。また、登園時に傷やあざがあった場合は、保護者へ確認し遅早ファイルに記入し、必要に応じて朝礼にて報告している。迎えの際にも、保護者に必要なことが伝わるように申し送りを丁寧に行っている。</p> <p><b>基本的な生活習慣を身につける段階での過程では、保育士が丁寧に言葉がけをしている</b></p> <p>0歳児でも、おむつ替えの際にはおむつが濡れたことを伝え、視線を合わせて声掛けをしながら行う、着替えの際には、手を通すことを伝えながらする等言葉がけをして介助をしている。着脱に関しても、靴の脱ぎ履きのためのマットの設置や、トイレに着脱用の台を置く等の環境を整えている。保育士は、子どもが興味を持った時にさりげない援助や的確な言葉がけを行い、褒めたりしてやる気につなげている。保護者には、保護者会時に子どもの姿を話し、連絡帳や送迎の際に家庭での子どもの様子を聞きながら、園と家庭とで連携して行えるようにしている。</p> <p><b>生活リズムを整え、子どもが見通しを持って園生活を過ごせるようにしている</b></p> <p>保護者には、重要事項説明書にて園の一日の様子として、年齢別にデイリーカリキュラムを明記、保護者会や園便りや保健便りで、朝食を摂ること、生活リズムを整える大切さを話す機会を持っている。0歳児から2歳児のクラスでは連絡帳にて、家庭と園の一日の生活リズムを把握し、0歳児の月齢の小さい子どもに関しては、午前寝も取り入れている。遊びや食事、午睡等の一日の流れと大まかな時間が決まってくることで、保育士の指示がなくても、子どもから自主的に片付けたり、次の活動の準備を始める等、見通しを持った行動ができるようになっていく。</p>					

3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当	
●あり ○なし		2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当	
●あり ○なし		3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当	
●あり ○なし		4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当	
●あり ○なし		5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当	
●あり ○なし		6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当	
評価項目3の講評					
<p><b>子どもが自分で自主的に遊びを選び、選んだ遊びに熱中できる環境に配慮している</b></p> <p>子どもたちが、当日のカリキュラムにより複数の遊びの中から遊びを選び参加できる体制があり、主体的にやりたい遊びを選び遊びに熱中できる環境を整えている。また、散歩に行きたくない等子どもの気持ちを聞き、集団に参加しない気持ちも尊重している。保育計画を作成する段階で、子どもが興味を持ったことに対してもっと知りたい等の知的好奇心を育み、選んだ遊びを心行くまで楽しめるようにしている。5歳児クラスでは数日に渡りロケット作りを行い、うまくいかないことも経験しながら継続して取り組み、やり遂げる達成感を味わう経験もしている。</p> <p><b>園生活の中で様々な発見や体験ができるように、カリキュラムを工夫している</b></p> <p>散歩が可能な天候の日には、近くの公園に出かけ、探索活動等、自然に触れて遊ぶ機会を大切にしている。歩いて行ける距離にたくさんの公園があり、固定遊具で遊ぶ、思い切り身体を動かして遊ぶ、鬼ごっこ等のルールのある遊び等目的に応じて公園を選び出かけている。夏の間は、熱中症アラートが発令され戸外遊びやプール遊びの出来ない日も多かったが、可能な日は、屋上園庭での水遊びや、氷を使った遊び等の内容を工夫して、夏ならではの遊びを経験できるようにしている。</p> <p><b>屋上園庭の環境を整え、身体を使った遊びや見立て遊びを楽しめるようにしている</b></p> <p>3階にある屋上園庭は、スカイガーデンと名付けて、ボール遊びや縄跳び等、身体を動かして遊ぶ場所と、砂遊びや見立て遊びなど静かな遊びに熱中する場所と住みわけを行い使用している。使用に関しては、職員用のルールは共有しているが、子どもが自ら考えて自主的に使用できるよう、ケガがないように見守り、一緒に遊びながら子どもの動きを観察し、子どもが友達と関わりながらのびのびと遊べるように配慮している。低年齢の子どもは、チャイルドガーデンとして玄関前に安全に遊べるスペースを確保し、探索活動や水遊びができるようにしている。</p>					

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>季節の行事は、子どもが楽しく参加し意味や由来に興味を持てるように計画している</p> <p>季節の行事や日本の伝統的な行事は、行事の意味を知り、楽しく参加できるように由来をクイズにして興味を引き出し、趣を変えて実施する等内容を工夫している。十五夜の花やススキを近くの花屋に買いに行く、節分には、イワシを焼いて食べる等非日常での経験を大切に、子どもの日や七夕、節分の行事の日には行事食を計画している。また、0・1歳児クラスに於いては、クラス単位で短時間行う等、子どもにも無理がない状況での行事への参加を計画している。</p> <p>子どもの自主的な学びを大切にして子どものアイデアから発展した行事を心がけている</p> <p>子どものやってみたいとの提案を実現する試みや、遊びの延長を行事に反映できるように職員が行事に関わっている。お店屋さんごっこでは、4・5歳児の発案でお祭りごっことして屋台を計画し、子ども同士で話し合い、保育士の助言も受けて商品を決め運営をすることで、子どもの満足感や達成感につながった。運動会であるみんなで遊ぼう楽しもう会や発表会は、子どもたちが日常の保育の中で取り組んでいる運動プログラムや、子どもが馴染んでいる絵本を題材にして劇をする等、子どもの意見を聞いて、種目や題材を選び実施している。</p> <p>保護者には、子どもの取り組む姿や、行事に向けての園の方針を丁寧に説明している</p> <p>子どもの行事に取り組む姿をニュースとして定期的に保護者に発信し、取り組む過程を保護者と共有することで、保護者にも子どもの成長を実感してもらえるようにしている。同時に、行事にあたり、園で大切にしていることを保護者に伝えている。実施後の保護者アンケートでは、子どもが負けて悔しい気持ちも経験できたとの感想も寄せられている。園では保護者の意見を活かし、次につなげるようにしている。運動会や発表会は幼児クラスのみの実施となっているため、乳児クラスの保護者の中には参加したいとの気持ちもあると考え、十分な説明に努めている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもが安全に保育が受けられる環境に配慮して保育室を決め、職員配置をしている</p> <p>長時間の保育の年齢ごとの配慮点を月案に記載し、静と動のバランスを取りながら、子どもが安心して過ごせる居場所作りと、メリハリのある活動を心がけている。0歳児クラスは、感染症への抵抗力も弱いことから、事故やケガの危険性や安全に配慮して、朝の預かりから0歳児クラスの保育室で過ごしている。延長保育の時間帯は、合同保育になっており、当番の保育士と日中の様子や保護者に伝える事柄について引き継ぎを丁寧に行い、延長保育の様子を延長保育日誌に記入して把握に努めている。</p> <p>特別感のある遊具等を準備し、延長保育時間をゆったりと心地よく過ごせるようにしてる</p> <p>夕方5時頃から遅番保育となり、4歳児クラスが3歳・5歳のクラスに分かれて一緒に遊んでいる。玩具の提供に際しては飽きないように選定し、自分の選んだ遊びを満喫し、ゆったりとした雰囲気の中で過ごせるように配慮している。延長保育の時間におせんべいや果物、水分補給も兼ねて、麦茶や牛乳を準備している。補食の内容に関しては、夕食に影響のない物と考えて、献立を作成している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>子どもが楽しく食事を摂れるように、栄養士や調理師、保育士と連携し環境を整えている</b></p> <p>屋上園庭には、調理中の給食の匂いがしてくることもあり、子どもたちは、五感の刺激を受けて空腹を感じ、食事を楽しみにして園生活を送っている。玄関への食材や調味料の展示、クラスへ調理担当が給食内容の説明に来る等、子どもが食への興味を持てるような取り組みや、給食室との関りも大切にしている。献立は、旬の野菜や果物、魚や肉などをバランス良く摂れるように、内容を工夫し、喫食状況を把握し給食会議にて検討している。苦手なものでも一口は食べてみようとの言葉がけを行わないことを共通認識として、子どもの気持ちに寄り添っている。</p> <p><b>食育計画は、子どもの食に関する興味を広げ、マナーを身に付けられるようにしている</b></p> <p>食育計画は、子どもの年齢や指先等を含む心身の発達、食に関する経験等を考慮して栄養士が作成している。子どもへの食育の取り組みは、保育士と協働して、パネルシアターや紙芝居を使って食事のマナー、三色栄養群の話をする等計画し実施している。保育士から、パンの食べ方等食事のマナーについての依頼が寄せられ計画する機会や、子どもの要望を受けて食育活動をする、献立に合わせて野菜の皮むきを子どもが手伝う等、柔軟な対応を心がけ、保育士と栄養士、調理師とで協働しながら子どもの食への経験を増やす取り組みを増やしている。</p> <p><b>マニュアルに基づき、アレルギー児の誤食や乳児の誤飲に注意して、食事を提供している</b></p> <p>食物アレルギーの子どもへの食事提供に関しては、アレルギー対応マニュアルに沿って、医師による生活管理指導票の提出や、栄養士との面談等の段階を経てアレルギー献立表を作成している。提供時には、個別のお盆に色違いの食器を使用、給食室と保育士で当日の献立と照らし合わせ代替食や除去食を口頭で確認、保育室でも他の保育士と口頭で確認、一番に配膳し、子どもは個別の机で喫食している。乳児クラスは、他園の窒息のニュースから、リンゴは加熱し、ブドウは1/4にカットする等、誤飲や窒息の事故防止に向けて、最大限の注意をし提供している。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>日々の保育の中で、子どもが自分の身体に興味を持ち自ら取り組めるように指導している</b></p> <p>看護師が、手洗いやうがいの仕方をイラストやパペットを用いて指導し、なぜ必要かを理解して繰り返し行うことで身に付くようにしている。子どもが自らの不調に気づき、職員に伝えられるようになることも目標と考えて、看護師や保育士が子どもに関わっている。運動会(みんなであそぼう楽しもう会)で行った柳沢運動プログラムは、保育の中で楽しく身体を動かしながら、日常ではあまり使わない筋肉を動かし、転んでも手をつける等の力を付けることや、巧技台や縄跳び、マットを使った遊びを取り入れる等して、子どもの身体づくりに取り組んでいる。</p> <p><b>職員は、研修やマニュアルに沿って子どもの安全に関する知識を得て実践している</b></p> <p>園内研修で、感染性の胃腸炎の際の吐しゃ物処理のシミュレーションや、アドレナリン自己注射薬の使用法を学ぶ、外部研修等で応急手当方法や心肺蘇生法について定期的に学習し、実践を交えて学ぶことで迅速に対応できるようにしている。子どもの事故防止に向けて、ヒヤリハットや事故報告書を共有、原因や起こる背景を考察している。熱性けいれんや肘内障等の既往歴のある子どもについては、表を作成し対応を全職員に周知している。嘱託医とは、子どもの健康管理についての助言を受け、地域の感染性の病気の流行状況などについての情報を得ている。</p> <p><b>保健計画や安全計画を作成し、子どもが安全で健康な園生活を送れるようにしている</b></p> <p>子どもの健康管理や安全教育、災害対策、保護者に向けての園の取り組みの周知について、安全計画を作成し、保健計画と関係づけて、計画的に子どもへの指導や保護者への情報提供を行っている。生活リズムの大切さや、厚着にならない、予防接種の励行等の集団生活を送る上で必要な情報を保健便り等で保護者に定期的に発信し、専門的な助言と園の対応について説明をしている。園内で感染症が発生した場合には、保護者支援電子システムで保護者に送信するとともに、出入り口の掲示板にも貼付して保護者に知らせている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>職員は、保護者の個々の事情を把握し、適切な支援ができるように努めている</b></p> <p>職員は子どもの状況や家庭環境や背景を把握し、入園時の面接や個人面談、日々の連絡帳や会話にて、保護者の相談に応じる体制を整えている。保護者の多様な考え方を受容し、集団生活の中で子どもも家族も安心して園生活を送れるように配慮している。仕事のシフトや急な残業で延長保育が必要になった場合には、スポットで延長保育を利用できる体制が整っており、重要事項説明書へ記載している他に、玄関にも掲示している。また、病児保育や児童館の情報も併せて掲示している。</p> <p><b>保護者会では、保護者同士が交流する機会を大切に内容工夫し実施している</b></p> <p>保護者会では、クラス別に話し合いたい内容を保護者に聞き、交流が進むように予め議題を決める、グループ分けをして少ない人数での話し合いにする等内容を工夫し、懇談の時間を多く持つように計画し実施している。5歳児クラスの保護者会では、就学に向けて初めて子どもを小学校に入学させる保護者から不安な点をアンケートにて聞き、兄弟が入学している保護者から助言を受ける等の機会も持っている。</p> <p><b>保育参観や参加、個人面談を行い、子どものことについて園との共通理解に努めている</b></p> <p>乳児クラスは保育参観、幼児クラスは保育参加を行っている。保護者には当日のデイリーカリキュラムと見てほしいポイントを明記してプリントを渡し、子どもと園生活を過ごす中で、生活や遊びの活動や子どもの姿だけでなく、保育士の関わりや友達との関係性を見てもらえるようにしている。保育参観や保育参加実施後個人面談を実施し、感想を聞くと同時に、保護者の意向や、保護者が持っている子育ての悩み等について聞いている。また、子ども一人ひとりのすくすくプランを作成し、子どもについて園と保護者の共通理解を深めている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>地域の中で、子どもが色々な体験を増やすことができる機会を模索している</b></p> <p>職員は散歩の際に積極的に地域の人に挨拶をして、園が地域の中で受け入れられ、見守ってもらえるようにしている。食育活動の一環で、地域の魚屋に魚の解体ショーを実施してもらったお礼に、手紙を渡す機会や、近の花屋に花を買いに行く等、地域の中で色々な体験ができるように取り組んでいる。ボランティア受け入れや、地域の高齢者施設との交流等に関しては、新型コロナウイルス感染症後も制限があり進まない状況にあるが、地域の保育施設や児童館での交流も少しずつ復活しつつあり、5歳児の小学校との交流も併せて、再開を予定している。</p> <p><b>子どもが、保育実習生や職場体験、地域の親子等様々な人と過ごす機会がある</b></p> <p>散歩先の公園で近隣の保育園と会った時には、危険のない人数であることを確認して、自然と交流ができるようにしている。中学生の職場体験や保育実習、看護学生の来園もあり、一緒に遊んでもらう体験を多く持っている。地域支援の園庭開放の際は、地域の親子と過ごす、また、保育参加では友達の保護者に遊んでもらうなど、様々な人と交流する機会があり、起震車体験では、他園の子どもが来園し、一緒に参加する機会があった。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	安全計画に沿って園マニュアルの中のリスクマネジメントを実践している	
内容①	安全計画は区の安全計画を基に自園の計画を策定することになっており、月ごとに安全点検重点箇所を決めたり、児童への安全教育や保護者への説明、職員の研修、地域との連携した取り組みを策定している。安全計画に沿って、園舎内外の安全点検や自然災害を想定した避難訓練等を毎月行ったり、事故防止や不審者対応、SIDS予防等の園マニュアルにあるリスクマネジメントに取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	公開保育により対象クラスの良い取り組みを学ぶなど組織として学ぶことに務めている	
内容②	テーマを定めた公開保育の対象クラスの取り組みを他のクラスの職員が見学して、意見や気付きを持ち寄って保護者対応や保育の向上に活かしている。良い取り組みは自分のクラスに持ち帰り、検討の上取り入れるなどの水平展開をしている。また、園は地域向け公開保育として近隣保育施設の保育士を招き共に学ぶ場を設け、地域保育施設の保育力の向上を図るなど、拠点園としての自覚をもって研修における良い事例を広めるべく務めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	給食職員を中心に、子どもの食に関する興味を引き出す取り組みを計画的に実施している	
内容③	子どもの食育に関して、子どもの心身の発達に則した取り組みについて指導計画に記載している。他に栄養士が年間食育計画や年間食育活動計画を作成している。子どもが食事への興味を広げ、作ってくれる調理担当者との関係を深め、食への感謝の気持ちを持てるようにしている。給食室の入口に子どもが手に取れるよう折り紙を設置、避難の際には手伝いに入るクラスを決め、職種の枠を超えて子どもに関わる協力体制を構築している。子どもからのリクエストで調理をしたり、栄養士や調理員発案の栄養指導等も自主的に計画し、職員も楽しみながら行っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域子育て支援に力を入れており、イベントに参加者が増える取り組みをしている
	内容	園は地域向けのイベントを開催し、ふれあい遊びなど親子で楽しんだり、保護者が交流できる場を設けている。在宅子育てで家庭が悩むことが多い子育ての悩みや離乳食についての相談にも応じるなど、地域子育て支援に力を入れており、イベントにはできるだけ多くの親子に来てもらえるように、地域向け情報誌を小さく扱いやすくし、内容も一新して昼食やおやつレシピやクイズ、季節に関する言葉の意味を記載するなど、興味ある内容にし手に取る人や参加者が増える取り組みをしている。
2	タイトル	保育日誌の個別欄を充実し、日々の子どもの心の変化や友達との関係性を注意深く観察し、記録するとともに振り返りを丁寧に行っている
	内容	0歳から5歳児までの日誌に子どもの姿を記載し、日々の子どもの状況の把握に努めている。保育士は成長や課題に向けて、保育士の関わりや、友達との関係性、子どもが興味を持っていることや、それに向けて子どもが発信している言葉等を丁寧に記録している。それにより、子どもの理解を深めるとともに、職員の気づきや、長期的・客観的な視点での子どもの指導計画につながっている。園長や副園長は、子どもの姿の記載の他に、改善に向けた対応策やその後の子どもの変化にも着目し、日誌の更なる充実を図るように保育士に指導をしている。
3	タイトル	子どもの権利や気持ちを尊重する保育を実践するにあたり、子どもにとってどうか、子どもがどう感じているかを大切に考えている
	内容	園全体で、子どもが楽しく園生活を送り、自分の力を発揮しながら生きる力を身に付けられるようにするには、職員がどのように関わっていくか、話し合いを重ねている。様々な保育観や仕事観を持つ職員が勤務する中で、子どもの権利を尊重して保育をすることや、言葉を発しない乳児であっても子どもの表情や仕草から気持ちを読み取り、子どもの気持ちに寄り添うこと等を、研修や話し合いの中で確認する機会を多く持っている。共通認識を持つことで、気になる言葉がけや関わりがあった場合に言いやすい環境と、助け合う関係性を築くように取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員がアイデアや意見を出し主体的に取り組んでいるPTの活動については、事業計画等への立案が期待される
	内容	園には6つのプロジェクトチーム(PT)があり、ほぼ6人ずつの職員がなんらかのPTに所属している。年度当初に体制を定め、ねらい、目標、役割について職員が検討し、アイデアを出し合い、企画・実践し、振り返り評価にも取り組んでいる。防災PTは地域避難所公開訓練等を企画、実践、環境PTは環境の改善に、ペンキ塗りや日よけ張りまでしている。ただ、PTの活発な活動が、園の中長期の運営を司る中期計画や事業計画書に記載がない点は残念である。PTの活動は、中長期や事業計画等へ立案し、その目標や成果の全体的な把握が期待される。
2	タイトル	園長は職員個人の課題を解消する取り組みを把握し、モチベーションを上げたいとしている
	内容	中期計画には保育の質の向上や危機管理など各年度中に達成すべき目標と、それに対する反省・検討事項が記載され、事業計画にも重要課題が明記されている。職員調査でも中期計画や事業計画に対する職員の理解度は97%と高い。ただ、園長は職員面談の中で職員が課題を意識して業務に取り組んでいるかを把握したいと思っている。園の運営上の課題は中期計画や事業計画で把握できるが、職員個人の課題を解消する取り組みの把握を明確にして、途中での進捗状況の取り組みの努力を評価するなどしてモチベーションを上げたいとしている。
3	タイトル	保育計画に関係する会議や、その他の諸会議等の討議内容の精査を進めることで、さらなる効率化を進めることに取り組まれない
	内容	園では、クラス打ち合わせ会議、幼児打ち合わせ会議、リーダー会議、職員会議等で子どもや保護者の状況を把握している。それにより、職員が子どもの興味を持っていることや、得意、不得意なことを把握し、保護者の支援を含めて子ども一人ひとりを理解して保育に従事し、保護者からも高い評価を得ている。全職員が共通認識を持って保育の質の向上を目指すためには会議も必要だが、事務時間の確保が困難との職員からの意見も散見される。ICT化を図るとともに、諸会議をまとめて実施する、乳児・幼児会議を集約する等の業務効率化に取り組まれない。